



電子カルテ導入のポイント

- 自由診療においておすすめの電子カルテとは？ -

01 はじめに	... p 3
02 カルテの目的とは？	... p 4
03 紙カルテのデメリット	... p 6
04 電子カルテのメリット	... p 7
05 電子カルテのデメリット	... p 9
06 失敗しない！電子カルテを選ぶ際のポイント	... p10
07 まとめ	... p14

顧客情報・施術履歴などを電子データとして記録する「電子カルテ」。

ペーパーレスが進んでいる中、
電子カルテは便利そうだと思いつつも、紙カルテを使用している店舗様は多いのではないのでしょうか？
紙カルテ特有のこんなお悩みを抱えるオーナー様は必見です。

- 紙のカルテが膨大にあり、管理が大変
- スタッフ間の連携をスムーズにしたい
- 電子カルテを検討中だが選び方が分からない

紙カルテとの比較や、**電子カルテのメリット・デメリット**などをわかりやすく解説。

また、**電子カルテを導入する際に「ここは気をつけたい！」というポイント**についてもまとめていますのでぜひ参考にしてみてください。



02

カルテの目的とは？

電子カルテの話に入る前に、まず、カルテの目的と用途について整理しておきましょう。

「カルテ」と言うと、本来「医療現場において、患者の診察内容や処方薬について記載した記録媒体」のことを指しますが、自由診療を行う治療院でも、顧客管理や施術履歴の記録のためにカルテや問診票を使用しているところがほとんどです。

自由診療において、カルテの目的とは为什么呢？

一つには、「情報の共有」です。

お客様自身の生活習慣について記載したり、やりとりした会話の内容、お客様ご自身への説明材料として使用する、といったように、「情報の共有やコミュニケーションを円滑にするため」という役割をメインに使用されている事が多いようです。

これによって、複数のスタッフが施術を行う大きな店舗などでも申し送りがスムーズになり、一人ひとりに寄り添った治療を行いやすくなるでしょう。



02

カルテの目的とは？

また、「マーケティングや売り上げアップ施策のために活用する」という事もあるでしょう。

問診時に流入経路についてのアンケートを入れたり、物販商品への興味度合い・購入履歴などを記載することでアップセルを促すきっかけにもなり、個人情報の管理以外の利点を生み出すことも可能です。

この様に、保険診療と比べてお客様の負担額が高くなる自由診療だからこそ、顧客満足度向上のための施策として、カルテを有効に活用することが重要になってきます。

そして、カルテをより有効に活用していくためには、カルテの基本的な役割である「記録」や「保管」だけではなく、「検索」「分析」「共有」などの動作をスムーズに行えるかどうかが大きく関わってくると言えるでしょう。



さて、「記録」という点ではより手軽で身近な印象の紙カルテですが、その他はどうでしょうか？

紙カルテのデメリットについて考えてみましょう。

- 保管場所が必要

保険診療を扱うのであれば治療が終了した日から5年間はカルテを保存する義務が発生します。紙カルテは保管場所が必要になるため、顧客情報が増えた際に管理が大変になります。

- 顧客情報を探すのに時間がかかる

紙はデジタルとは違い、情報の検索を目視と手作業で行わなくてはなりません。検索に時間を取られてしまったり、人為的なミスでカルテを紛失してしまう危険性も伴います。

- 異なる店舗の情報を閲覧できない

引っ越しや移転などで顧客の通う店舗が変わったり、分院での施術履歴を見たい場合でも、紙である以上、遠方から気軽に情報を閲覧することはできません。

- 字の癖や劣化などによって読み辛い場合がある

読みにくい文字で書かれていた場合や、経年劣化によってカルテが色褪せてしまった場合など、顧客情報が正確に残せないこともあります。

続いて、電子カルテについて見ていきましょう。

紙カルテとの大きな違いは記録・管理方法です。

来店記録などを紙に書いてファイリングする「紙カルテ」に対して、「電子カルテ」はパソコンやタブレットを使用することで、電子データとして顧客情報の記録・編集・管理を行います。

電子カルテのメリットについて3つご説明します。

○ 顧客情報の入力・検索がスピーディーになる

電子カルテを使用する上での魅力は、作業効率が向上する点です。

例えば電子カルテには、施術項目をあらかじめ登録しておけば、毎回入力をしなくてもタップするだけで簡単に記録できる機能を備えたものがあります。

「お客様が帰られてからカルテの記入をする」「閉店後の時間でカルテの記入をする」といった店舗様も多いと思いますが、お客様にヒアリングをしながらその場でカルテに記入ができれば、施術時間内にカルテの作成を終えることができ、かなりの時間短縮になります。

電子データなので名前や日付などの情報を元に検索しやすく、瞬時に必要なデータを確認できる点もメリットで、ファイル整理の手間も削減できるでしょう。

○ ファイルの保管場所が不要になる

電子カルテの場合、紙カルテのように大量のファイルを保管しておく場所が不要になります。

タブレットなどの電子機器さえあれば、数千件にもおよぶ顧客情報を一括で管理でき、持ち運びも簡単にできます。これまでファイルを置いていたスペースを有効活用できますね。

○ 店舗間・スタッフ間での情報共有がスムーズになる

入力された情報を別の場所からもすぐに閲覧でき、即時的な情報共有をしやすくなります。

経営担当者が各店舗の顧客情報を確認・分析することも容易になるため、グループやフランチャイズでのメリットも大きいでしょう。

施術記録の内容も、項目や入力方法を統一しやすいためスタッフ業務の標準化に繋がります。

その場で撮った写真を簡単に載せることができる電子カルテなどもあり、より詳細な記録を紙よりも早く、わかりやすく残すことが可能です。

このように、**電子カルテを導入することによって、紙カルテのデメリットを補う事ができます。**

電子カルテの導入を検討するにあたり、デメリットについてもきちんと理解しておくことが大切です。

電子カルテのデメリット2つをご説明します。

- 導入コストや維持費がかかる

電子カルテの導入に際しては、基本的にシステムの導入費用や利用料がかかります。

中には低コストで導入できるアプリやシステムもありますが、
使用できる機能が限られていたり、追加オプションの加入や更新料などに別途費用が掛かる
ケースもあり、高額になってしまう場合も。

適切に活用し、無理なく運用していくためにも、価格だけで決めてしまうのは注意が必要です。

- スタッフの慣れが必要になる

電子カルテの場合は紙カルテと違って、操作方法をマスターする必要があります。

新人スタッフが入った際にはその都度研修が必要になる場合もあるため、複雑な操作が伴うシステムや、サポート体制がしっかりしていないものは避けた方がよいでしょう。

では、電子カルテを選ぶ際に気をつけるポイントにはどんなものがあるのでしょうか。導入した後に「なんだか違う…」とならないようによく確認しておきましょう。

確認すべきポイントは大きく分けて3つあります。

ポイント 1 入力や操作がしやすいかどうか

ポイント 2 自分の店舗にとって使いやすいものか

ポイント 3 セキュリティ管理やサポート体制が充実しているか



次のページからは、上記3つのポイントについて詳しく解説していきます。

ポイント1

入力や操作がしやすいかどうか

電子カルテであればどの製品でも入力が容易で効率化につながるかというと、実はそうではありません。今まで紙のカルテに手書きで記入をしていたスタッフが、突然「キーボードやタブレットだけで入力しなくてはならない」という環境になった場合、どうなるでしょうか？
全てのスタッフが今までと変わらないスピードで文字を打てるかと言ったら、そうではありませんよね。

「カルテ記入の効率化を目的に導入したものの、かえって入力に時間が掛かってしまった」ということになる、どんなに高性能な電子カルテを導入したとしても「入力し辛く、スタッフが使ってくれない...」ということにもなりかねないので、注意が必要です。

紙カルテと同等、もしくは、紙カルテよりも簡単に入力できる電子カルテを選ぶことで、はじめて「電子カルテに移行するメリット」を最大限に感じることができるのではないのでしょうか。

ポイント 2

自分の店舗にとって使いやすいものか

電子カルテの使い勝手はさまざまです。

例えば、文字入力機能のみのシンプルなものから、施術履歴に画像や写真を読み込み、手書きで直接書き込める機能の付いた高性能なものなど、種類も豊富で多岐にわたります。

問診・施術の記録内容に汎用性やカスタマイズ性があるかどうかについても確認しておきたいところ。

コンセプトをはっきりと打ち出している店舗や、複数の店舗を経営されている場合など、カルテの内容を実際の運用に沿ったものに変更したいケースもあるかと思いますが、**カスタマイズ機能の充実した製品を選べば自由度の高い使い方をすることが可能**です。

実際に電子カルテを使用する場面を想像しつつ、用途に合わせて選ぶことが大切です。

ポイント 3

セキュリティ管理やサポート体制が充実しているか

電子カルテは、数百件から数千件といった膨大な顧客情報を扱うため、厳重に管理する必要があります。

そのため、**セキュリティ面がしっかりしているかどうか、トラブルが起きた際のサポート体制がきちんと整っているかどうか**、ということも大切です。

特に機能の豊富さを謳っているサービスであれば、操作マニュアルや気軽に質問できるお問い合わせ先が用意されているかどうかについても確認するようにしましょう。

中には、いつでも相談に乗ってくれる専任のスタッフが付き、導入から安定運用までを長期的にサポートしてくれるような「カスタマーサクセス」が充実したサービスもあります。

「今まで使ってきたカルテをどう移行していったらいいのかわからない」
「実際の業務フローに組み込むのが大変」など、導入後に出てきた問題についても親身になって相談できるようなサービスを活用できれば、店舗での活用をよりスムーズに行うことができます。

本記事では、自由診療において電子カルテを導入する際のメリット・デメリットや、選び方のポイントについてご紹介しました。

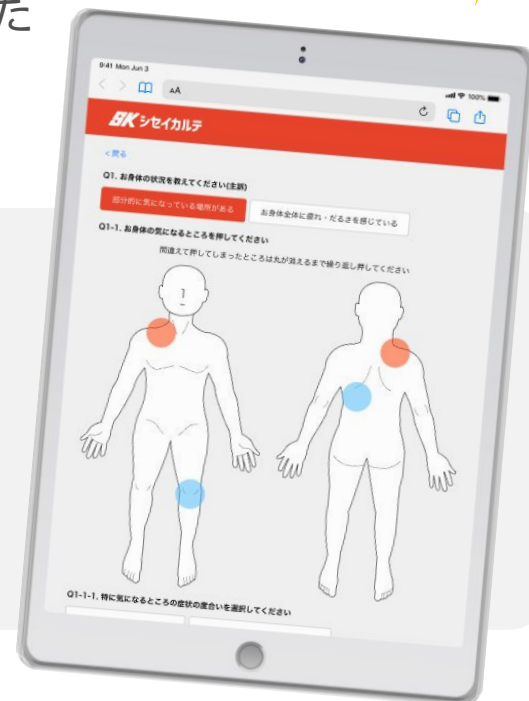
顧客情報を「記録」「保管」といった従来の使い方だけではなく、**顧客満足度の向上・売り上げ向上のために活用するなら、電子カルテの導入が最適**です。

今回ご紹介した注意点やポイントを参考に、店舗の特徴やスタッフの傾向に合った電子カルテを検討し、新しい施策に繋げてみてはいかがでしょうか。

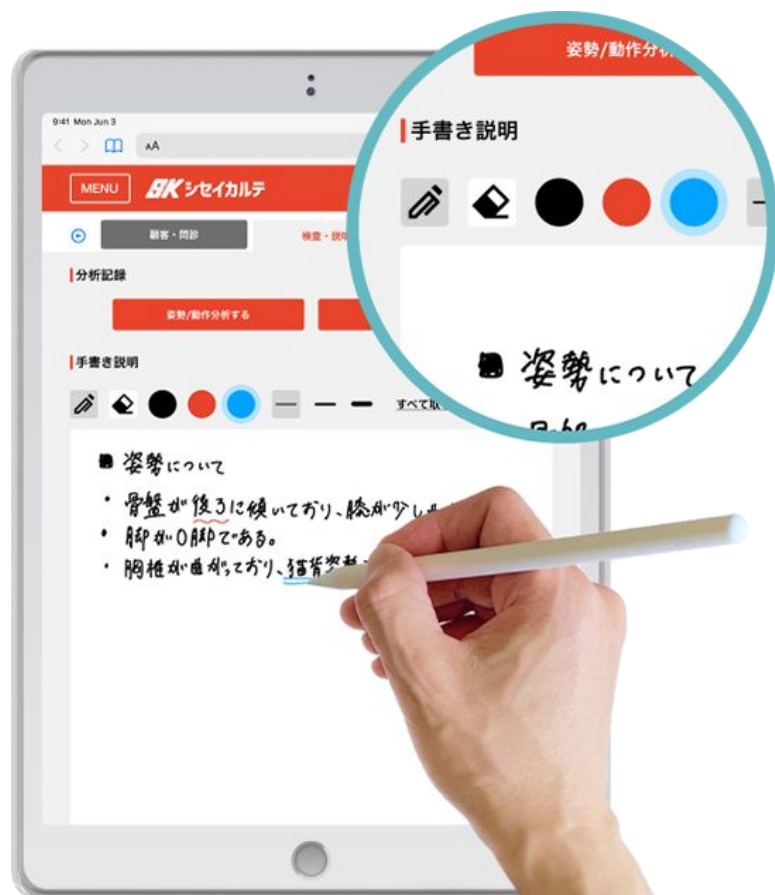
...さらに、

「効率化×カスタマイズ性×充実サポート」を求めるならこの1台！

弊社の**「マルチカルテ」**がおすすめです。



「マルチカルテ」3つの特徴



手書き説明など入力機能も充実

入力はタブレットから。

基本のタッチ操作に加え、手書き機能で追記や説明もできる！

写真や画像への書き込みもできるので、
体の状態を説明しやすく、わかりやすい！

同意書に手書きの署名もできるので、重要書類も漏れなく保管。

[マルチカルテの資料請求はこちら](#)

「マルチカルテ」3つの特徴



問診機能も充実

お客様のスマートフォンからも入力できるWEB問診機能を搭載！
事前に問診ができるので、受付時間の短縮や待ち時間の削減に！
入力された内容は、そのままカルテに自動で連携されるので、
転記の手間も不要です。
問診内容も各店舗ごとに合わせて自由にカスタマイズ！

[マルチカルテの資料請求はこちら](#)

「マルチカルテ」3つの特徴



タッチ式でわかりやすい症状入力

直感的に操作しやすく、症状のある部位もひと目でわかる！

項目を選んでタッチしていくだけの簡単操作でカルテが完成し、記入の時間を効率化。

カルテの記入内容をカスタマイズでき、標準化できるので、担当が変わった場合の引き継ぎや、他店舗の施術状況などもスムーズに共有し、活用できる！

[マルチカルテの資料請求はこちら](#)

AI姿勢分析との連携でさらに高付加価値を

\ マルチカルテと連携できる！ /

AI姿勢分析「シセイカルテ」で、
さらに**売り上げアップ**！

3分で分析が完了！

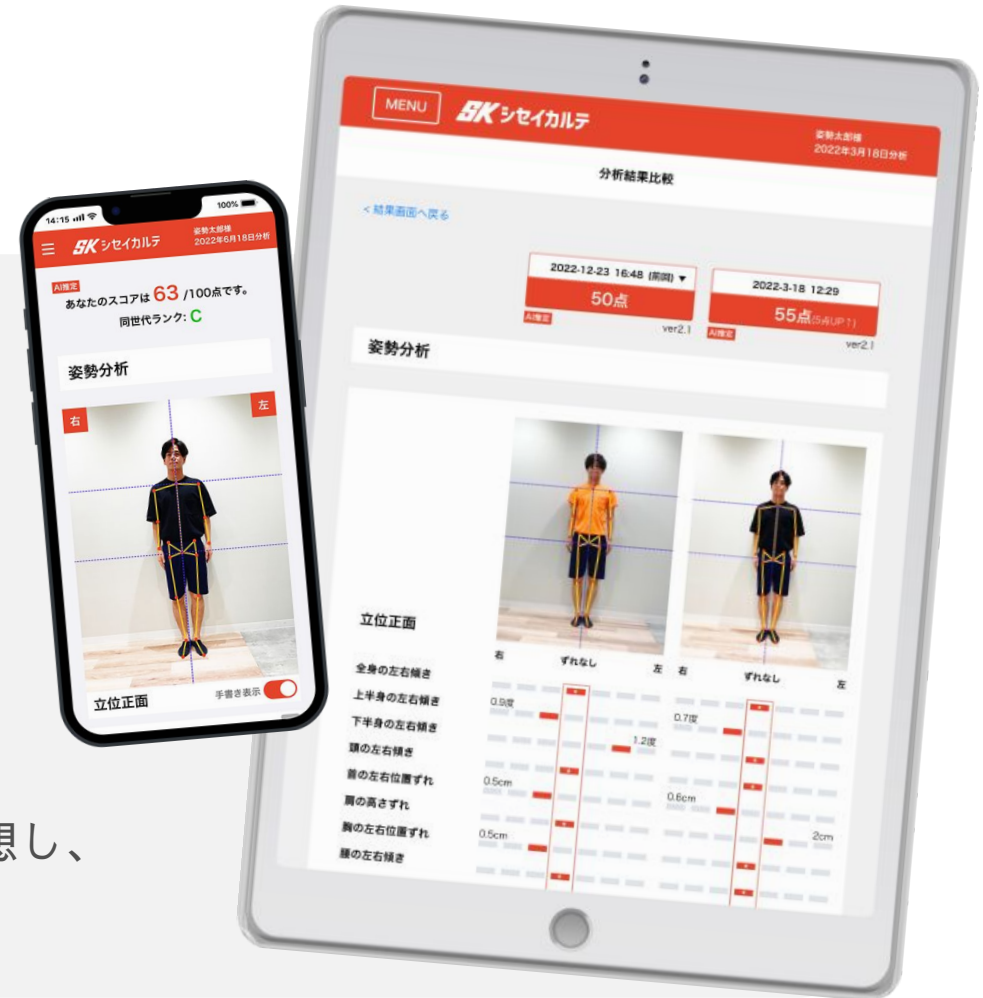
必要なデバイスはタブレットやスマートフォンのみ。
写真を数枚撮影するだけで簡単に姿勢分析が可能です。

ゆがみや柔軟性を数値化できる！

身体の歪みや柔軟性を定量的な数値で評価。
過去のデータと並べて比較することも容易です。

未来予想と推奨プログラム！

このままの姿勢だと将来どのような身体になってしまうかを予想し、
それを回避するための運動プログラムを動画で提示します。



「シセイカルテ」の導入実績

シセイカルテは治療院やスポーツジムなど様々な業界の姿勢・歩行のプロにご愛用いただいています。
新規顧客獲得や継続率アップを始めとし、経営面での嬉しいインパクトを実感いただいております。

SNSで新規顧客獲得！

整骨院

体験者のSNS投稿を見て、新規顧客が来店！わかりやすく納得できる分析結果で既存顧客の満足度もアップし、回数券の売上も導入前から25%アップしました。



株式会社ウィステリア

代表取締役 中村哲也 様

信頼できる充実のサポート体制

スポーツジム

トライアルの時からしっかりとサポートしてくれ、安心して使用することができました。使用イメージや活用方法の相談もしやすく、導入後もスムーズに業務に組み込みこめました。



GHG FIT BASE

代表 高橋 基樹 様

[その他の導入事例はこちら](#)



関連サービスのご紹介

各サービスの詳しい情報については、以下のサイトからご確認ください。



[AI姿勢分析シセイカルテ](#)

[マルチカルテ](#)

[AI歩行分析・動作分析](#)